

令和3年度 武山養護学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○項目・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上（法令遵守、服務規律の徹底）	常に教育公務員としての自覚を持ち、法令遵守により公務外非行の発生を未然に防止する。	朝の打ち合わせや職員会議、不祥事防止研修等で、勤務時間内外を問わず教育公務員としての自覚と誇りを持って行動できるよう職員に啓発することを通じて、職場全体としての意識を高め、公務外非行の発生を防ぐことができた。
職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	相手の心身を思いやり、人権を尊重した職場環境の下で、パワハラ・セクハラ・マタハラ行為を防止する。	不祥事防止研修会を通じて、ハラスメントが起きない職場づくりのために必要な取り組みについて考え、企画会議や職員会議で共有し、人権尊重やハラスメントへの意識を向上することができた。今後も、風通しのよい職場づくりに取り組んでいく必要がある。
児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりがわいせつ・セクハラ行為の未然防止について当事者意識を持ち、児童生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を防止する。	わいせつ事案に関する職場討議等、例年よりもこの領域での研修・討議が多くなされた。指導や相談のルール、施設環境、労働環境、同僚性等多岐にわたって共有できた。「自分のこととして」とらえることの必要性も共有できたが、教職員の自尊心を傷つけ士気を低下させる面があることも見逃せない。児童生徒に、わいせつ被害にあわないような指導を積極的に取り入れることも必要である。
体罰、不適切な指導の防止	人権を尊重した丁寧な指導を徹底し、体罰や不適切な指導等を認めない風土づくりに努める。	障害者週間ポスターの掲示、体罰防止啓発リーフレットの配布等人権意識を高めるための啓発資料の周知等を通して、人権意識の向上や不適切な指導の防止に取り組んだ。また、校内巡回時に気になる指導を見かけた際には、相談チームを中心に担任への言葉かけや生徒理解への助言等指導の改善につながるよう努めた。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜における試験問題や進路関係書類の作成・管理等を適正に実施する。	過去に発生した具体例や遵守事項を、点検表等を通じて確認したり、担当者間でチェック体制を確認したりすることで事故を防止することができた。進路関係書類作成や保護者への提示、校内での保管等について、複数で取り組み記録を残すことを徹底した。
個人情報等管理、情報セキュリティ対策	記録メディアや文書の管理を徹底し、個人情報の紛失・流出や誤配付・誤送信を未然に防止する。	校内のヒヤリハット、事故報告の集積を通して、生徒名の入った教材の扱いや連絡帳等の誤配付防止に向けて検証した。教材については紛失を防ぐ取り組みと個人を特定されない工夫を検討すること、誤配付防止についてはダブルチェックの徹底とチェックに際し余裕をもってあたること等を確認した。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	法令遵守を徹底し、交通事故や交通違反の発生を未然に防止する。	交通安全運動期間のポスター掲示、資料回覧。掲示板や打ち合わせなどでの情報共有を行った。今年度においては交通事故や重大な交通違反の発生を未然に防止することができた。

業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	業務の効率化や調整を図り、職員間で協力体制をつくりあげ、事故や不祥事を未然に防止する。	チーム会の議題を見直したり、学部内のデータを整理したりすることで、業務の効率化を図ることができた。ヒヤリハット報告をしながら事故の未然防止に努めてきたが、教員間の協力体制を築き同僚性を醸成していくことは継続していく課題である。
財務事務等の適正執行	財務規則及び私費会計基準に基づき、適時、適正な財務・会計処理を行う。	公費と私費について会計基準に基づき、適切な予算執行および会計処理に努めた。今後も定期的な点検や分かりやすい私費会計処理に努め、事故防止に向けた取り組みを継続していく。

○ 令和3年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和4年度に取り組むべき課題

（学校長意見）

今年度の目標に関して学校全体としては概ね達成でき、校内での重大な事故や不祥事を未然に防ぐことができた。それは、職員一人ひとりが、定期的な研修等を通じて事故不祥事防止に対する意識を維持したことによる結果である。しかし、ひとつ間違えば、重大な事故につながりかねないヒヤリハット事例は多く見られた。次年度は、引き続き人権尊重の徹底、組織的指導体制の強化及びヒヤリハット事例に見られた個人情報の管理について重点的に取り組んでいきたい。